

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100629		
法人名	社会福祉法人 椿寿会		
事業所名	シニアレジデンスつばき		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽2123		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和2年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺はのどかな田園地帯にあり、ゆったり静かに過せています。晴れた日は車通りの少ない農道を散歩し、筑波山や富士山を眺めたり、田植えや稲刈りを見ることが出来ます。散歩道では近隣の畑を手入れされている住民の方などと挨拶を交わし交流を図っています。コロナ禍でもありイベント等も自粛している中ですが、施設内では利用者様と一緒に手作り餃子やおはぎ作りなどを行い、美味しいと大変喜ばれ楽しく過ごせる様工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・畑でさつまいもや茄子を育て、大学芋や芋ごはん、味噌汁の具材とされたり、餃子やおはぎ作りなど楽しんでいる。また、のどかな自然環境を生かし、散歩や日向ぼっこで、ゆっくり過ごされるなど、食の楽しみを大切に利用者の健康的で明るい暮らしに結びつけられている。
- ・運営推進会議では、事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告、身体拘束適正化委員会や介護事故防止への取り組みなど、幅広い内容での話し合いが行われ、有意義な会議運営をされている。
- ・目標達成計画についても、定期訓練では夜勤担当職員や訓練未経験職員を中心に、火災発生を想定し基本訓練に取り組まれるほか、車椅子利用者など利用者の状態に合わせた避難訓練に取り組みされていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員は介護理念を全員で唱和している。理念を理解し、実践できる様努めている。	「季節を感じることでできる生活作りを支援します。・日常生活の中で、身体機能の維持ができるように支援します。」の理念のもと、利用者の思いとその人らしさを大切に、健康で明るく、楽しく過ごされるよう、利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で本年度は様々な集まりが自粛され、通常はサマーコンサートに作品を出品したり見学している。散歩の際、住民の方と会話を楽しんでいる。	最近では自粛されているが、事業所周辺での散歩の際には地域の方と挨拶を交わされているほか、初詣、公園や買い物に出かけられるなど、利用者が地域との関わりを持ちながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり本年度は書面にて運営推進会議を行っている。つばきの活動報告を送り、質問等についてもメールや書面で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた内容を理解し、サービス向上に活かしている。	事業所から利用者の暮らしぶりや活動報告のほか、身体拘束適正化委員会や介護事故防止への取り組みなど、幅広い内容での話し合いが行われ、事業所運営やサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡相談、報告を行っていきながら、サービス向上を目指している。	行政の担当者には運営推進会議でアドバイスをいただくほか、申請手続きや報告・相談の機会にコミュニケーションを図られ、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し対応している。カンファレンス後などに勉強会を設け、身体拘束への理解を深め日々のケアに生かせる様努めている。	身体拘束適正化委員会が定期的に開かれている。その機会に、拘束に関する学びの時間を持ち、身体拘束の内容とその弊害が確認され、言葉での拘束を含め、行動抑制をしない介護を実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで介護についての正しい知識を身に付け、職員内で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会、話し合いを持ち活用できる様、努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務所で見学時や契約時に説明を行い、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られる時や運営会議の際にお聞きしているが、今年は面会も自粛して頂いている為、細目に電話やお便りで連絡を取るようになっている。	「美味しいを食べたい」、「花を見たい」など、利用者の要望に応えられている。家族については面会時や運営推進会議などで意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行うカンファレンスにて、意見を挙げる事が出来ている。	定例会議のほか、日常の業務の中でも話し易い職場環境が作られ、意見・提案の聞き取りをされ、食事づくりやレクリエーション企画など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績については、その都度把握し考慮している。また、シフト面でも配慮し、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの件があり研修は中止となっている。再開した際には積極的に参加していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流は出来ていない。今後、コロナが落ち着き再開した際には、交流を図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安や要求を傾聴し希望を出来るだけ可能にし、よい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの影響で見学して頂けないが、困っている事・不安な事・要望を伺い説明し、話し合いをする事でよい関係が築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様に今必要な支援が選択出来る様助言し、様々なサービスの利用を考えられる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、畳み、台所の手伝いを一緒に行って共同生活が送れる様、サポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加により近況報告し、共に本人を支えていく関係を築ける様努めている(残念ながら、コロナ禍により、行事への家族参加は見送っている)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には笑顔で明るい挨拶を心掛け、快く面会に来て頂ける様努めている。	最近では自粛されているが、知人の面会を受けたり、近くの神社への初詣、馴染みの農業公園に花を見に出かけられるほか、家族の協力を得て法事に出かけるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格、行動を把握し、良い関係が保てる様席を配置したり、利用者同士関わり合い、支え合える様支援し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切に、相談の支援が出来る様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人と関わる時間を持ち、思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は言動や表情から思いをくみ取れる様努めている。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握されている。困難な場合は、日々の関わりの中での表情や仕草などから汲み取るほか、家族からの情報提供を得て、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から伺ったり、本人の日々の会話の中から情報を得るなど、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム、心身状態、出来る事などを日誌・個人記録に記録し、朝夕の申し送りにて共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のケアのあり方、課題について月1回のカンファレンスにて見直し、改善を行っている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアの実践・気付きなどを記入している。食事・排泄等の状況もチェック表で確認出来る様にして職員間で情報を共有し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ、受診や買い物など対応出来るように努め、柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで来て頂いているパドル体操や季節ごとの行事で楽しめる様支援しているが、現在はコロナ禍の為、外部からのボランティアは迎え入れずに各棟毎に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を伺ったうえで、かかり付けの病院を継続するか、変更する場合には話し合いを行い決定している。	入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とするも、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、協力病院にバイタル、食事量、水分量をFAXし助言を頂き、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、ご家族様や病院に情報を頂き、安心して戻れる様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医から説明や指示を頂きご家族様と相談しながら今後の方針を決定する様に取り組んでいる。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時はマニュアルの基づき、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、日中夜間どちらでも全職員が動ける様に訓練している。今年度は、つばき職員のみで行う予定だが、申請については通常同様に行い、消防署より助言を頂く。	定期訓練では夜勤職員や訓練未経験職員を中心に、B棟台所からの火災発生を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練に取り組まれている。また、車椅子利用者など利用者の状態に合わせた避難訓練など、体制整備に努められている。	災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者を預かる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉遣いや対応に注意する様心掛け、職員同士注意し合える様努めている。	定期的に行われる勉強会で、言葉遣いや行動が利用者の尊厳や誇り、プライバシーを損ねないものか、互いに振り返りを行い、適切なケアが行えるよう職員全員で取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で決定出来る様な声掛けを行い、対応出来る様考慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを大切に、出来るだけ希望に添える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に来て頂き、利用者が希望するカットをして頂いている。衣類は季節毎に入れ替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、テーブル拭き等を、入居者様自ら進んで行っている。	利用者の個々の状態に合わせて、テーブル拭きや後片付けなど、職員と共に行われている。畑で収穫したさつま芋や茄子など、旬の食材として楽しめるほか、おはぎや餃子づくりなど、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量や刻み等をして、食事量水分量を記録している。カロリー計算された献立で職員も一緒に食事をし、利用者様の変化に気付ける様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、見守りの必要な利用者様にはホールにて行って頂き、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表に記入し、各利用者様のニーズに合わせた排泄介助に努めている。	トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を作成し体調管理を行っている。調理の工夫をしたり、体操を行うなどして便秘予防に努め、必要に応じて薬服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて各利用者様に応じたサービスを行い、笑顔が見られるような声掛けをする様心掛けている。	利用者の体調に合わせたシャワー浴を含め、希望に沿った支援をされている。シャワー浴の際には浴室内の温度を上げ、足浴を併用し温まっていたりよう取り組まれている。また、利用者の状態に合わせた職員二人での支援も行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた寝具、衛生的にも気を使い安心して入眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後2名の職員が服用前後の確認を行っている。服薬の目的を常に意識し、慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の出来る事、やりたい事を尊重し、可能であるものについてはお手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	安定した天気の際には、散歩や外気浴を行い、気分転換出来る様努めている。生活に潤いがより持てる様日々探求している。	最近では自粛されているが、事業所周辺での散歩、敷地内での外気浴を楽しまれるほか、庭での花の種まきや植え付け、野菜づくりを楽しまれている。また、家族の協力を得て外出など、利用者の希望を大切に支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に管理している。必要な時は事務所に報告し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には事務所の電話を利用し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を利用者様と作り、行事の写真を飾るなど工夫している。安心して過ごせる様、家具の配置にも注意している。	リビングには、赤や黄に色づいた紅葉や銀杏の大木の貼り絵が飾られ、利用者が季節を感じながら、気持ち良く過ごせるよう工夫をされている。また、換気や什器類の消毒、アクリル板の活用、職員の体調管理など、コロナ対策が徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっている為、ゆっくりと過ごす事が出来る。食堂では気の合った利用者様と談話したり、ゲーム・塗り絵など楽しんで頂ける様、席などに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の希望に応じて飾り物をし、安全に過せる様、家具の配置などに注意している。	馴染みの寝具や家族の写真、趣味の雑誌や塗り絵が飾られるなど、利用者が落ち着いて生活できるよう工夫をされている。また、転倒リスクの高い利用者の居室には手すり用の支柱を敷設したり、家具の配置を工夫されるなど、安全策が取られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掛け、大きく名前や場所の記入を、利用者様にに応じて工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	マニュアルや説明だけでは、新しく入職した職員は、緊急時に適切な判断で行動することが難しい。	入職の新旧に関係なく、緊急時に適切な判断で行動することができるようにする。	新しく職員が入職したら、早い段階で訓練を行う。全体的に行うことが難しい場合は、棟単位で規模を縮小して行う。	12ヶ月
2	35	年間を通して、訓練の時期が偏ってしまっている。	年間を通して常に意識を持てるよう、災害時の組織対応力の向上に向けた取り組みを考える。	消防訓練や、避難訓練については、規模の大小にかかわらず、年間でのスケジュール通りに実施する。平均的に訓練を繰り返すことで、緊急時でも適切に行動ができるようする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。